



チャレンジ遠絡！

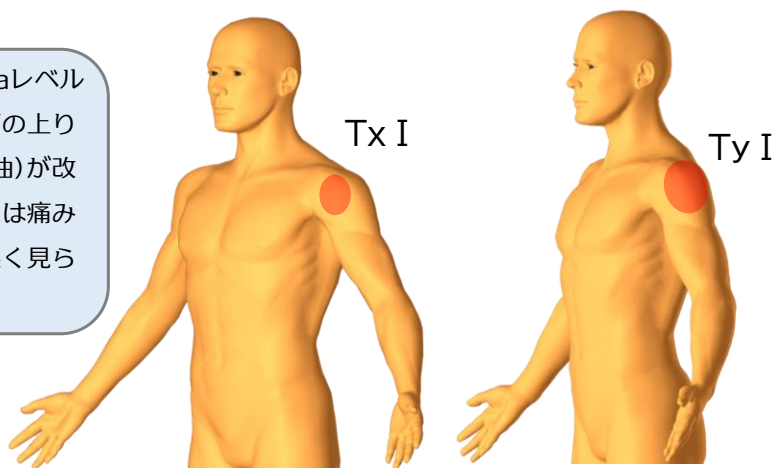
肩関節周囲炎編

遠絡統合医学セミナー®

1

軽度

Tx I と Ty I を aレベル
で接続すると肩の上り
(水平以上の屈曲)が改
善されるケースは痛み
のない人でも良く見ら
れる。



好発部位

2

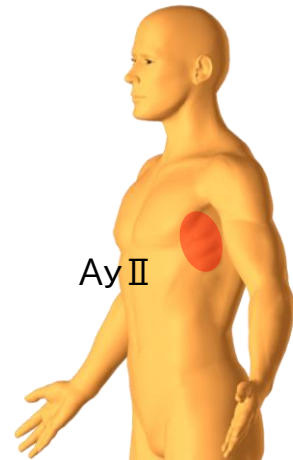
中等度



見落としやすいのが
Ay II の存在。肩関節の
前方を下降して、側胸、
側腹部を走行している。
腋窩、肩甲骨周辺の
ツツパリ、拘縮による
制限もよく見られる



Ay II



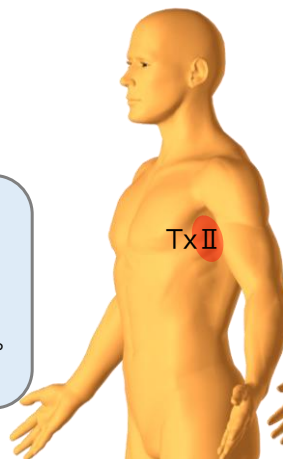
Ay II

※大雑把なAy IIの走行イメージ

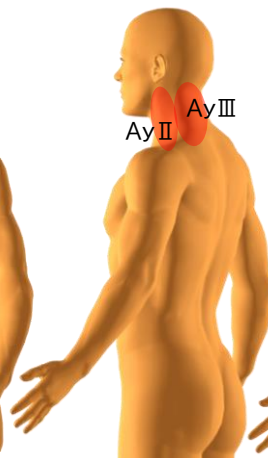
3

重度

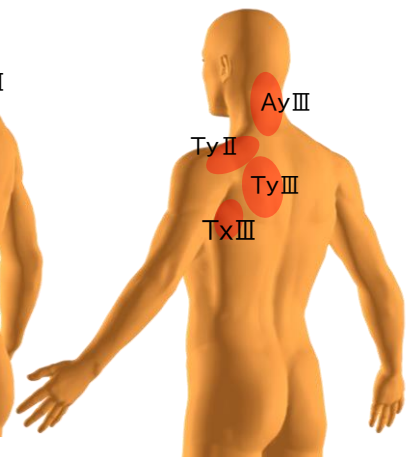
重症化するケースは
複合型の病態。
五行の関係、表裏の
関係で病態が波及する。



Tx II



Ay II Ay III



Ay III

Ty II

Ty III

Tx III

凍結肩等、重症化している肩関節周囲炎

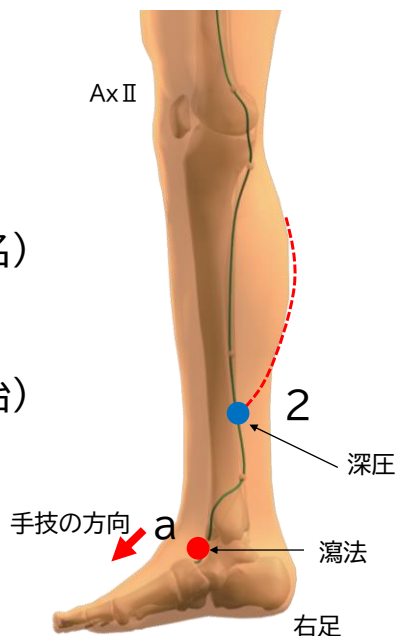
4

軽度のケース

処置: 接続

lTx I /a
⇒ rAx II /0:a (遠絡同名)

lTy I /a
⇒ rAx II /2:a (臓腑通治)



5

中等度のケース

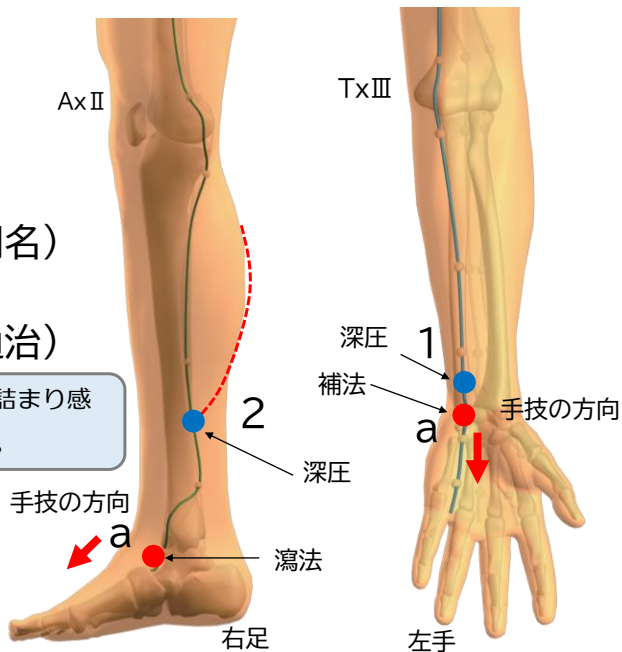
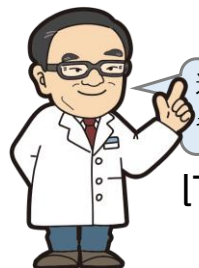
処置: 接続 + 相輔

lTx I /a
⇒ rAx II /0:a (遠絡同名)

lTy I /a
⇒ rAx II /2:a (臓腑通治)

接続で効果が得られた後、残る重み・詰まり感
や硬さに対し相輔を追加するのが有効。

lTy I /a · lTx I /a
⇒ lTx III /1:(a) (相輔)



6

中等度の病態



Ty I・Tx I では、変化のないケースもある。
Ay II の影響がある場合、胸筋が運動の妨げになる。

lTy I /a の接続で使う rAx II /2:a は、lAy II と表裏関係あり、治療に使うのに不適となっている可能性がある。

したがって、
先に lAy II /bc+a の治療を行ってから lTx I /a・lTy I /a の治療
行う事が有効となる。

7

中等度のケース

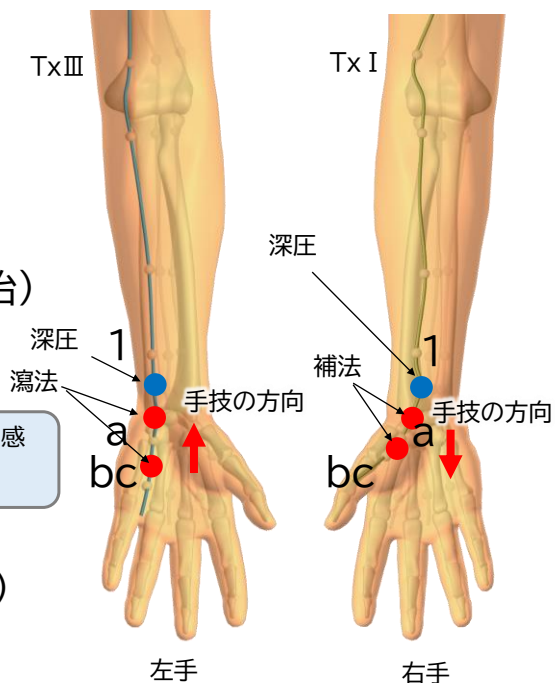
処置: 接続 + 相輔

lAy II /bc+a
⇒ lTx III /1:bc+a (臓腑通治)



接続で効果が得られた後、残る重み・詰まり感
や硬さに対し相輔を追加するのが有効。

lAy II /bc+a
⇒ rTx I /1:(bc+a) (相輔)



8

局所と中枢

治療の戦略(処方組み立て)

痛みを訴える部位や障害部位を局限してみる治療の組み立てを局所といいます。

痛みを訴える部位や障害部位の全身との関係性を考えた治療の組み立てを中枢といいます。主に脳・脊髄・脊髄神経といった神経系の働きや奇脈(督脈・任脈)と12ライン関係を中枢と呼んでいます。



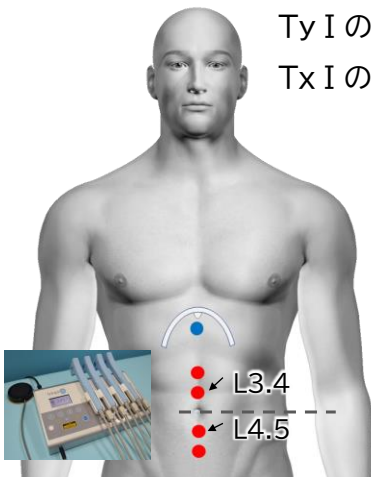
9

中枢治療

12ラインと督脈の関係

Ty I の症状を治療する際、L4.5レベルの督脈治療を行います。

Tx I の症状を治療する際、L3.4レベルの督脈治療を行います。



～督脈治療～

To/L3.4+L4.5

⇒Ni/鳩尾:L3.4+L4.5

10

重度の病態



夜間痛、異常な疼痛・緊張・拘縮、血行障害、
重度な運動障害など自律神経系の異常を伴う
肩関節周囲炎がある。

自律神経系の症状がある場合、下位脳症状と考えられます。

下位脳AyⅢのbcと肩甲帯TyⅢのbcの感作による障害も考えられます。

五行の順方向の波及、陽経から陰経の波及による障害も考えられます。

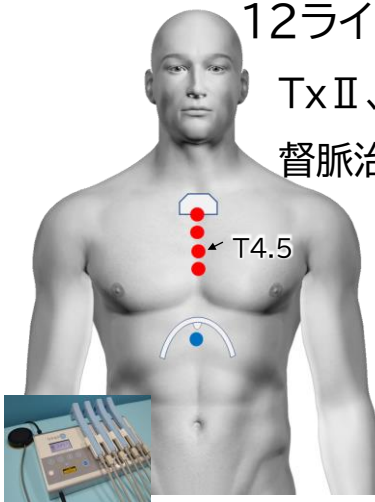
TxⅡとTxⅢの症状は、督脈の胸椎レベルとの関係も出てきます。

11

中枢治療

12ラインと督脈の関係

TxⅡ、TxⅢの症状を治療する際、T4.5レベルの
督脈治療を行います。



～督脈治療～

To/T4.5

⇒Ni/鳩尾:T4.5

12

中枢治療の処方解説

督脈(To) 基点となる重要な流れになります。

処方内容

奇脈は4分節づつ治療するのが効果的です。

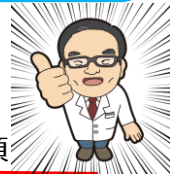
Tx I ・ Ty I の治療に必須。



$To / 2d+c+a + T2\sim6 + L2\sim S1$
 $rAxIII / bc+c+a+T4.5+L3.4+L4.5 / bc+c+a+T4.5+L3.4+L4.5$
 $lAyIII / bc+c+a+T4.5+L3.4+L4.5 / bc+c+a+T4.5+L3.4+L4.5$
 $lAxIII / bc+c+a+T4.5+L3.4+L4.5 / bc+c+a+T4.5+L3.4+L4.5$

自律神経症状、五行順方向の再建に必須。

Tx II、Tx III の治療に必須



※実技セミナー肩編では、会場にて解説・実演。